

養成講座ストーリー第4弾

「川村道子教授から学ぶ意味」

～知識を学ぶだけではなく、「現場で生かせる支援力」を身につけるために～

不登校の子どもたちへの支援を考えると、私たちは「どうすれば学校に戻れるのか」ということだけに目を向けがちです。

しかし、実際の支援現場では、学校に行けないという状態の背景に、さまざまな要因が複雑に絡み合っています。

本人の不安や緊張、自己肯定感の低下、発達特性、家庭での人間関係、友人関係、過去のつらい経験、身体症状、精神的な不調など、一人ひとり抱えている事情は異なります。

だからこそ、不登校支援には「学校に行かせるための方法」だけではなく、子どものこころと生活を理解し、家族を支えながら、その子どもに合った支援と一緒に考えていく専門性が必要になります。

今回の「訪問看護師のための不登校支援スキルアップ養成講座」では、その専門性を学ぶために、川村道子教授から学ぶ機会を大切にしています。

では、なぜ川村教授から学ぶのでしょうか。

その意味を、4つの視点から考えてみたいと思います。

1. 精神看護学の専門性

「症状」だけではなく、「その人の生活とこころ」を理解する

不登校支援において重要なのは、目の前に現れている行動だけを見るのではなく、その行動の背景にある「こころの状態」を理解することです。

「学校に行かない」という一つの行動にも、子どもによってさまざまな意味があります。

学校での人間関係に悩んでいるのかもしれません。

失敗することへの不安を抱えているのかもしれません。

周囲から期待されることに疲れてしまったのかもしれません。

あるいは、自分でも理由をうまく言葉にできない苦しさを抱えているのかもしれません。

精神看護学では、病気や症状だけを見るのではなく、その人がどのような生活を送り、何を感じ、何に困り、どのような環境の中で生きているのかを捉えていきます。

これは、家庭に訪問して支援する訪問看護師にとって、とても重要な視点です。

家庭という生活の場に入るからこそ見えてくる子どもの表情や生活リズム、家族との関係、本人の言葉にならない変化があります。

その一つひとつを丁寧に捉えながら、「この子に今、何が必要なのか」を考えていく。

川村教授から学ぶ精神看護学の専門性は、不登校支援において、子どもを「学

校に行けない子」として見るのではなく、一人の生活者として理解する視点につながります。

2. 不登校支援における医療・福祉・教育の連携

一つの専門職だけでは支えきれないからこそ、つなぐ力が必要

不登校支援では、一つの専門機関だけですべての課題を解決することはできません。

学校には学校の専門性があります。

医療には医療の専門性があります。

福祉には福祉の専門性があります。

そして、訪問看護には、家庭という生活の場に入り、本人や家族に継続的に寄り添うことができるという大きな役割があります。

大切なのは、それぞれが別々に支援するのではなく、必要なときに情報を共有し、それぞれの専門性を生かしながら、子どもと家族を中心に支援をつないでいくことです。

例えば、学校では見えていなかった家庭での様子を訪問看護師が把握する。

医療機関では治療の必要性を判断する。

福祉機関では生活上の課題や社会資源につなげる。

学校では学習や友人関係、復学・進路について考える。

こうした専門職の力がつながることで、一人の子どもを多面的に支えることができます。

川村教授から学ぶ意味の一つは、こうした「多職種連携を実際の支援にどう生かすのか」という視点を身につけることです。

訪問看護師が医療だけを担うのではなく、子どもと家族を中心に、学校や福祉、医療などをつなぐ存在になる。

それは、これからの不登校支援において、ますます重要になる役割だと考えています。

3. WAM 事業での事業評価・事例検討

「経験」で終わらせず、「学び」に変えていく

今回の養成講座を考える上で、もう一つ大きな意味を持つのが、これまで私たちが取り組んできた WAM 助成事業での実践です。

WAM 助成事業では、訪問看護ステーションなどと連携しながら、不登校やひきこもりの初期段階にある子どもと家族への訪問支援に取り組んできました。実際に家庭を訪問すると、教科書や理論だけでは分からないことがたくさんあります。

最初は玄関を開けてもらうことさえ難しい。

本人と会話ができないこともある。

保護者自身が疲れ切っている場合もある。

支援を受けることに迷いや不安を感じている家族もいます。

そうした一つひとつのケースに対して、支援者が悩み、考え、試行錯誤しながら関わってきました。

しかし、そこで得られた経験を「大変だった」「うまくいった」という感想だけで終わらせてしまっては、次の支援につながりません。

重要なのは、

「なぜ、この支援がうまくいったのか」

「なぜ、支援につながらなかったのか」

「本人や家族にどのような変化が起きたのか」

「支援者にはどのような判断や関わりが必要だったのか」

という視点から、実践を振り返ることです。

川村教授には、こうした実践を事業評価や事例検討という視点から整理し、現場で起きていることを学びに変えていく役割があります。

これは今回の養成講座の大きな特徴です。

実際の支援事例から学ぶことで、受講者は「知っている」だけではなく、「自分ならどう支援するか」を考えることができます。

4. 実践と学術を融合した講座

「学ぶ」から「実践できる」へ

今回の養成講座で目指しているのは、専門的な知識をたくさん覚えることだけではありません。

もちろん、不登校の現状や背景、精神疾患、発達特性、家族支援、トラウマ、訪問支援、多機関連携などについて学ぶことは重要です。

しかし、知識があっても、それを実際の家庭訪問の場面でどう生かすのかが分からなければ、支援にはつながりません。

そこで大切になるのが、

「知識を学ぶ」

↓

「現場で考える」

↓

「実践する」

↓

「事例を振り返る」

↓

「学び直す」

↓

「次の支援に生かす」

という循環です。

川村教授から学ぶことの価値は、まさにこの「実践と学術をつなぐ」ことにあります。

大学や研究の中で培われた専門的な知識と、実際の支援現場で積み重ねられた

経験。

この二つを結びつけることで、現場で役立つ支援力へと変えていくことができます。

川村道子教授から学ぶ意味とは

今回の養成講座は、単に「不登校について勉強する講座」ではありません。不登校という現象の背景にある子どものことを理解し、家族の苦しさにも目を向け、医療・福祉・教育をつなぎながら、訪問看護師としてどのような支援ができるのかを考える講座です。

そして、実際の支援事例を振り返りながら、経験を専門的な学びへと変えていきます。

川村教授から学ぶことによって、

「なぜ、この子は学校に行けないのか」

という問いだけではなく、

「この子は今、何に困っているのか」

「家族は何を必要としているのか」

「訪問看護師だからこそできる支援は何なのか」

「地域の専門機関と、どうつながればよいのか」

という、より深い視点から不登校支援を考えることができるようになります。

知識を、現場で生かせる力へ。

不登校支援には、正解が一つあるわけではありません。

だからこそ、専門的な知識を学び、現場で考え、実践し、振り返り、また学ぶ。

その積み重ねが、子どもと家族に寄り添う支援者としての力になっていきます。

「知識を学ぶだけではなく、現場で生かせる力を身につける。」

それが、この養成講座で川村道子教授から学ぶ大きな意味です。

そして、この学びが、一人ひとりの子どもと家族を支える訪問看護師の新しい力となり、宮崎における不登校支援の新しい地域モデルへとつながっていくことを願っています。

次回、第5弾へ

第4弾では、「誰から学ぶのか」という視点から、川村道子教授から学ぶ意味についてお伝えしました。

では、実際にこの養成講座の第5弾では、「受講すると何が変わるのか」。

ここは特に重要です。

「講座内容」ではなく、受講後に何ができるようになるのか、を発信します。

一人で悩むのではなく、同じ課題に取り組む訪問看護師とつながることができる。

ストーリー第4弾 川村道子教授から学ぶ意味

— 現象を深く理解し、その人に合った支援へつなぐために —



現象から
深層に至る志向性が、
支援の質を高めます。

1 精神看護学の専門性

— 症状だけでなく、
その人の生活とところを理解する —



- 「学校に行かない」という行動の背景にある
ところの状態を理解する視点を養います。
- 家庭という生活の場に入り、表情や生活リズム、
家族との関係性まで丁寧に捉えます。
- 一人の生活者として、その人らしい回復と成長を
支える専門性を学びます。

2 不登校支援における 医療・福祉・教育の連携

— つなぐ力が、子どもと家族を支える —



- 医療・福祉・教育など多職種の専門性を理解し、
連携の中で訪問看護師の役割を考えます。
- それぞれの立場をつなぎ、子どもと家族を中心に
支援の輪を広げていく力を育てます。
- 地域で支える仕組みづくりの視点も学びます。

3 WAM事業での 事業評価・事例検討

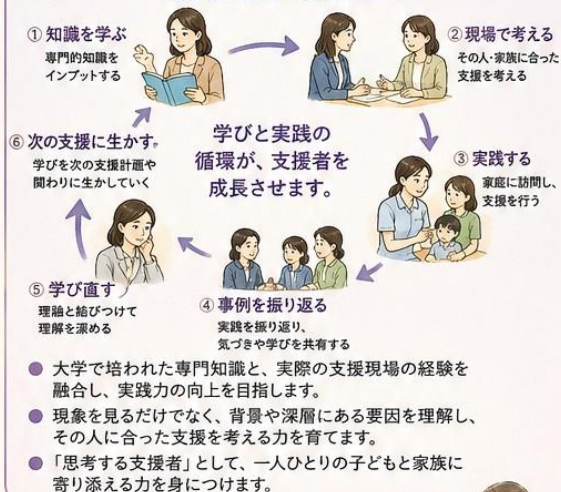
— 経験を「学び」に変え、次の支援へつなぐ —



- WAM助成事業での実践事例をもとに、事業評価や
事例検討を通して支援の質を高めます。
- 「うまくいったこと」「課題」を多角的に振り返り、
根拠のある支援を学びます。
- 現場での迷いや悩みを共有し、明日からの実践に
生かせる学びに変えていきます。

4 実践と学術を融合した講座

— 知識を、現場で使える力へ —



- 大学で培われた専門知識と、実際の支援現場の経験を
融合し、実践力の向上を目指します。
- 現象を見るだけでなく、背景や深層にある要因を理解し、
その人に合った支援を考える力を育てます。
- 「思考する支援者」として、一人ひとりの子どもと家族に
寄り添える力を身につけます。



現象の奥にある「その人の物語」に寄り添い、
子どもと家族の未来を支える訪問看護を共に学びましょう。

